

目的 東北における綿レインコートの着用目的は、当短大の調査の結果、防雨用として40%、防寒用として27%、防雨防寒両用として25%、おしゃ水用として8%着用され、着用時期は、3月4月5月中旬までと10月11月12月中旬までという時期が示された。第1報で市販の婦人用綿レインコート地を試料とし、その防水効果、クリーニングによる影響などその一部を報告した。

今回は、紫外線照射による変退色などを検討し、耐用年数との関係を追求する。

方法 試料は綿100%のもの2種類、綿とポリエステル混紡3種類である。まず、ドライクリーニング、ランドリーをそれぞれ1回3回5回と行ない、洗濯の相違によって、撥水性、耐水性の変化による防水効果の消失を測定した。次に調査にもとづいて着用年数を3年と定め、1日の通学時間(紫外線照射時間)からフェードメータ照射時間を設定し、JIS L 0841に従って染色堅ろう度試験を行ない、さらに脆化の影響を引張試験で検討した。変退色の変化はJISの染色堅ろう度等級に準じ、さらに色差計による明度の変化と比較した。

結果 原布の撥水性は、種類により極端に差異が大である。洗濯に対する撥水性は、実験的に等比的な減少割合であった。ランドリーはドライクリーニングより減少割合が少ない傾向を示した。耐水性減少率も同様の傾向であった。紫外線脆化による強伸度の変化は、照射時間120時間までの脆化が顕著でその後の変化が少ない。変退色の変化は、照射時間40時間で試料5種類中2種類が3級以下の退色を示した。